

## 別寒辺牛湿原のクモ相とクモヒメバチの寄主の解明

松本吏樹郎（大阪市立自然史博物館）

○クモは、小さいものではカやハエから、大きなものではガやチョウ、時にはトンボまで、様々な昆虫をつかまえて食べます。そして食う一食われるという生き物同士の関係の中でとても大切な役割を果たしています。

この研究では別寒辺牛湿原とその周辺の地域にどのようなクモが生息しているのかを調べました。

○調べた場所は、主に水鳥観察館周辺の大別川左岸のヨシ群落から林のふちまでで、これに加えて湿原から少し離れた、愛冠とあやめヶ原の林内でも調査を行いました。期間は 2017 年 7 月 3 日から 6 日、8 月 7 日から 10 日、

9 月 11 日から 14 日です。目で探す、網ですくい取る、落ち葉をふるう、マレーゼトラップというしかけを使うなど、様々な方法でクモを採集して持ち帰り、名前を調べました。



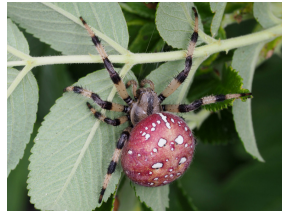
調査地の様子

○この調査によって全部で 18 科 76 種のクモが得られ、別寒辺牛湿原とその周辺にどんなクモが住んでいるのか、その一部を知ることができました。今後この地域において節足動物を中心とした生き物同士のつながりを考える上で重要な情報となるでしょう。中にはアリガタハエトリのように、これまでにほとんど見つかっていないようなクモも含まれていました。

○クモは他の虫を食べるだけでなく、逆に食べられてしまうこともあります。その 1 つがクモヒメバチという寄生バチです。このハチはクモを麻酔して卵を産み付け、ふ化した幼虫がクモの体の上で成長します（図 1, 2, 7 のクモに幼虫がついているのがわかると思います）。クモを探すのと同時に、どんなクモにどんなクモヒメバチが寄生しているのかも調べました。その結果、オオヒメグモ、オオツリガネヒメグモ、カニミジグモ、クリイロフクログモでクモヒメバチの寄生が確認されました。特にオオツリガネヒメグモに寄生することが分かった *Zatypota* 属の 1 種は、成虫の形や DNA を調べたところ、これまでに知られているものとは違うこと、つまり新種であることが明らかになりました。別寒辺牛湿原からは他にもまだ知られていないクモや、クモにまつわる虫たちが見つかりそうです。



①



④



⑦



⑩



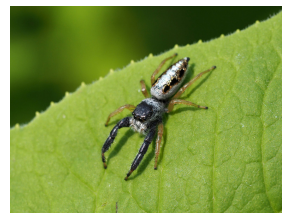
②



⑤



⑧



⑪



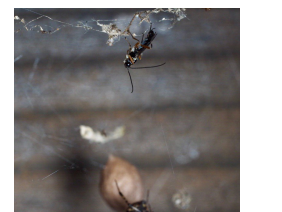
③



⑥



⑨



⑫

- 1.オオツリガネヒメグモ 2.カニミジグモ 3.フタスジヒメグモ 4.アカオニグモ  
5.ナカムラオニグモ 6.アズマキシダグモ 7.クリイロフクログモ 8.マユミテオノグモ 9.ツユグモ  
10.スジシャコグモ 11.キタヤハズハエトリ 12.オオツリガネヒメグモに寄生するクモヒメバチ  
(*Zatypota* 属) の 1 種